

# そうか生きものだより 第10号

編集 そうか生きもの調査編集委員会/草加市環境課 発行 草加市

〒340-8550 草加市高砂一丁目1番1号 Tel.048-922-1519 / FAX048-922-1030

HP <http://www.city.soka.saitama.jp> E-mail [kankyoka@city.soka.saitama.jp](mailto:kankyoka@city.soka.saitama.jp)



## 【ジョウビタキ】

ジョウビタキはスズメ目ツグミ科の渡り鳥で、日本には越冬のためにやってきます。全長15cm前後の小さい鳥で、スズメよりもやや小ぶり。雄（円内）の頭部は銀色をしていて、胸から腹部は鮮やかなオレンジ色で顔や背中、翼は光沢のある黒色が特徴的です。一方、鮮やかな色彩の雄に比べ雌は全体的に灰色がかった褐色で、まん丸いつぶらな瞳と羽の白い紋と尻尾の明るいオレンジ

色が映えて、とても素朴で可愛い鳥です。

草加ではそうか公園、中川周辺、公園、民家の庭先など、おじぎをしながら鳴いている様子をよく目にします。また、数多い野鳥のなかでも、比較的人に対しても警戒心が低く、結構近くまで寄ってくることもあり、身近な冬鳥として親しまれています。

### 主な内容

- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| ① ジョウビタキ (近岡 勝夫さん撮影)    | ⑤ こんな生きもの発見   |
| ② 持続可能な社会を・・・ (米山 昌幸さん) | ⑥ 身近な生きもの見分け方 |
| ③ そうか生きもの集合調査に参加して      | ⑦ 私の生きもの観察路   |
| ④ 参加者の声                 | ⑧ 読者からの投稿写真   |

## 持続可能な社会を創るために、わたしたちにできること

獨協大学経済学部国際環境経済学科長 米山 昌幸さん

草加市では2016年度から市内に生息・生育する動植物について、市民参加により調査する「そうか生きもの調査」を始めている。草加市は1999年に環境共生都市宣言を行い、今年、生物多様性の保全と都市の健全な発展を両立させて、草加の自然の恵みを次世代に引き継ぐために、「生物多様性そうか戦略」を策定した。生物多様性の取り組みを進めていくうえで「そうか生きもの調査」は貴重なデータを収集する役割を果たしている。

獨協大学は、2017年以降、毎年夏休み中の8月下旬に、大学キャンパスで実施する集合調査に協力している。3年間で延べ33名の学生が協力して、学内の芝生広場と屋上庭園、松原団地記念公園、伝右川(獨協大学正門橋地点)で調査を実施している。

本学は環境保全に向けて自然と人が調和する施設を構え、学生と教職員が一体となり節電や省資源に取り組み、環境マインドを持った人材を創出することを目的として、エコキャンパス・プロジェクトを進めてきた。特に2013年度に経済学部の新設した国際環境経済学科では、学生が問題意識をもって社会に飛び出して、現地調査を行って現状を把握し、問題を発見し課題を設定して、その解決に向けて能動的に取り組む活動を活発に行っている。この学科は、地球温暖化問題や貧困・開発問題などグローバルな問題を身近な問題と捉えて、解決策を提案し実行し、持続可能な社会を実現させる人材の輩出を目指しているが、「伝右川再生会議」や「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」も、この目的に向けて持続可能な社会を創っていくための自律的な仕組みを学内につくろうという試みである。私はこの国際環境経済学科が中心となって全学の学生を巻き込んで、人間社会と自然環境の共生を自分事として考えられる人材を育てたいと考えている。その一環で毎年

「そうか生きもの調査」のボランティアスタッフ募集を全学の学生に呼び掛けている。

本学はキャンパス内の森と草加市内の公園や水辺をつなぐことで、地域全体を緑の回廊でつなぐことをコンセプトに、芝生広場の水田や小川、里山風景を再現した東棟3階の屋上庭園など、緑豊かなキャンパスづくりを進めてきた。2017年にはツミの営巣も観察されるようになったことで、餌となる昆虫やカエルが繁殖していると思われたが、実際に調査してみると、学内に多様な動植物・昆虫の生態系が形成されている事が明らかになった。

ところで、2018年6月の“Earth Week Dokkyo”開催期間中、「ピザ窯で作るピッツァ」企画開催中、中庭の桜並木の下を歩いていると、悠々と地面を歩くクビアカツヤカミキリを見つけた。学内にはこの特定外来生物の拡散を防止するために、フラスが大量に排出されているサクラの木の周りに青いネットが巻きつけられていたが、そのネットの外を平然と歩いていた。ピザ窯で焼く無料配布のピザをお目当てに並んでいた女子学生らは、私がカミキリムシの首元をむんずと掴むのを見て、驚きの奇声を上げた。今の学生は、昆虫を手掴みで掴むなどという経験もないから無理もない。

本学では生物多様性の回復を進める一方で、突然出現した特定外来生物の駆除にも取り組んでいる。これからもたくさんの学生が「そうか生きもの調査」に参加して、このキャンパスが人間と環境との共生について深く考えるフィールドになることを願っている。

## そうか生きもの集合調査に参加して

### ◆第3回中川河川敷コース

白鳥 雪子さん

7月、8月の夏休み期間は平日に「生きもの集合調査・観察会」が行われます。昨年の8月は猛暑の為中止になりましたが、今年は1時間早い8時からでしたし、カンカン照りではなかったので安心して参加することが出来ました。朝、早めでしたが、虫捕り網や虫かごを持った小学生が大勢参加していました。集合場所のそうか公園で、中川河川敷とそうか公園コースの2班に分かれますが、私は中川河川敷コースの方に参加しました。

河川敷に着いて、一步草むらに踏み込むと、バッタが何匹も飛び立ちます。それだけでも子供達は大喜び。こんなにバッタが住んでいる場所はないのではと思えるほど、そこかしこ、バッタだらけでした。大きなショウリョウバッタもいましたが、殆どが、まだ翅の短い幼体でした。

開かれた場所で、バッタ捕りや草花の観察を楽しんだ後、いよいよ人が入り込まないような土手の奥へ。クヌギの木が何本も並んでいて、うっそうとした中川河畔林。ここにはカブト虫が確かにいるような匂いさえします。舐め回すように1本1本、木の表面を見ていくと、やはりいました、カブト虫。発見の声に子供達が群がります。草加でカブト虫発見、凄いことです!! さあ、どうやって捕まえるかは子供達に任せると、長い網で下に落とし、見事、自分達で捕まえることができました。数匹見つけて、場所移動。東漸院に寄って、柿木公民館へ。

草加の自然観察会で私が良いなあと思うのは、自然に詳しい大人達が、子供達の発見や質問に丁寧に耳を傾けて下さることです。小さい頃からの本物に触れて過ごすこの体験が、将来、自然を大切に人育てているのだなと思い、参加する子供が増えるたびに嬉しく思っています。



## ◆そうか公園コース

増根 雅美さん

7月23日、今回の調査はそうか公園と中川の2班に分かれるとのことで、そうか公園の調査に参加しました。

公園内ではニイニイゼミが盛んに鳴いています。歩き出すとすぐに猛禽類のツミが現れました。大人も子どもも息をひそめてそーっと近づき、木々を飛び交う姿を一瞬見ることができました。

修景池ではチョウトンボやハグロトンボなど、子どもの頃に図鑑で見た虫たちがいることにうれしく思います。どちらもヒラヒラと飛びますが、羽が黒いので複雑な飛び方を観察できておもしろい。かい掘りをしてガマなどが増え、ヤゴが生息しやすい環境になったのかもという説明でした。

次に公園北側のハス田に向かいます。市内では残り少ないハス田ですが、青々とした大きな葉とピンク色のきれいな花を見るだけで暑さが和らぎます。ここにはオタマジャクシから成長したばかりの小さなカエルがたくさん跳ねており、子どもたちは大喜びです。

希少種の水オオバコもちらほらと花を咲かせています。沈水状態で育つこの植物は、ハス田がなくなると生き残るのは難しいでしょう。

私たちが暮らすすぐ横で、小さな生きものたちが種を残そうと必死で生きています。開発が進み様変わりした柿木田んぼを見ながら、残り少ない自然を大切にしなければと心から思いました。



ガマ等は繁茂したため、10月、除去しました。



水オオバコ

## ◆第4回獨協大学・松原団地記念公園

吉田 圭子さん

今年も獨協大学で生きもの調査会がありました。私が1年で最も楽しみにしている調査会です。私は今年、3度目の参加でした。

今年はお天気が雨っぽく、時折小雨に降られながら、灰色の空の下での調査会でした。そんなお天気のせいかわ、トンボや蝶など飛ぶ虫は去年よりもぐんと少なかったです。

それでも芝生広場と記念公園では、何種類もの昆虫に出会えました。しかも芝生広場では、去年までは観察されなかったマルタンヤンマが、今年新たに確認されたとのお話がありました。是非この美しいトンボが獨協のキャンパス内で繁殖・定着して、ツミに続く新たなシンボルになると良いなと思いました。

記念公園の池についてですが、私が気になったのは、まだ造られて数年のこの新しい池に、今回結構な種類の生きものが見つかったことです。ギンブナやアメリカザリガニ、スジエビ、モツゴなどに加えて、ミシシippアカミミガメも確認しました。絶対に自然に発生するはずがない生きものがあるということは、誰かが入れたのかなという疑問が残ります。生きものを飼う一人ひとりが、きちんとルールを守り、責任を持って飼ってけるといいなと思います。

また植物に関しては種類が減って、単純化してきているというお話がありました。池を作った時に植えた在来種の植物がなくなってしまったというのも残念でした。せっかく在来の植物を植えて素敵な池やビオトープを作っても、放っておけば外来種が入ってきたりして荒れます。作ったその後に維持するのがどんなに大変かを改めて思い知りました。

最後にツミについて書きます。

一昨年、初めて参加した時は、私はツミの名前さえ知りませんでした。集合調査に参加しても、大学のキャンパス内で『日本で1番小さな猛禽類』

が巣作りと子育てをしていたらしい、そんな程度の認識でした。それよりも獨協大学の特殊な建物の構造や、里山庭園、栽培されている様々な植物、昆虫で賑わう芝生広場などの方が興味深かったのを覚えています。

それでも講師の方が熱く語るのを聞いている内に、段々と都市部の大学構内でツミが営巣することがどんなに貴重な出来事か、私にも分かってきました。

去年は芝生広場のビオトープで、実際にヒナが水浴びをしているのを見ることができました。大勢の人間がこんなにゾロゾロいる中で、無邪気にパシャパシャと水浴びをしているのを見て、この環境を守っていきたくて強く思ったのを覚えています。

そして3年目の今年、ツミはまた来てくれました。ここまで続くと、この獨協大学の地がツミにとって“安心して安全な子育てができる場所”として認められたようで、嬉しさと誇らしさが胸に湧き上がりました。来年も再来年も10年後も、この自然環境を守り、維持していく草加市であり続けたいです。そのために、私たち一人ひとりが今の自分に出来ることを考え、行動していく必要を感じました。

昔に比べて草加の自然や生きものは、たくさん失われてしまいましたが、まだまだ残されている部分や、回復していけることがあると思います。そんな草加の可能性を信じて、より豊かな自然環境を未来につなげていきたいです。



## ◆第4回獨協大学・松原団地記念公園

## 獨協大学経済学部国際環境経済学科3年

羽賀 咲弥加さん

私は一昨年度と今年度に、獨協大学キャンパス内とその周辺で8月に行われた「そうか生きもの調査会」に学生スタッフのリーダーとして参加させていただきました。今年度の生きもの調査会は、集合時間前に雨が降っており、悪天候のため実施が危ぶまれましたが、集合後、晴れ間が見え天気も回復し、良い調査日和となりました。

まず私たちは、獨協大学東棟3階にある屋上庭園に向かい、生育している植物や野菜、果物の説明を受けました。私自身も身近な屋上庭園の植物でも新たな発見がたくさんありました。参加した住民や子供たちは、実際に生っているブルーベリーを食べ、甘くておいしいと感激していました。

次に大学内の芝生広場、伝右川、松原団地記念公園に移動して調査を行いました。伝右川では、事前に市の職員さんがモンドリ（漁具）を設置し、獨協大学の濱 健夫特任教授が水質調査の準備をしてくださっていました。モンドリには、シモフリシマハゼという伝右川では見られることが珍しい魚も観察することができました。私たち米山ゼミでは「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」という事業を行って伝右川の浄化・再生に取り組んでいますが、生きものが増えてきている事実を知って、嬉しく思いました。

最後の閉会式の後には、ツミが作った巣を観察しました。獨協大学で誕生したツミが巣立ち、翌年また巣を作っていることを知り、獨協大学の自然の豊かさの証明であると感じました。

今回のように住民の方々と専門家の方が共同で観察を行う集合調査は、多角的に多くの知識を共有することができるため、興味の幅がますます広がります。都会に近い立地にありながら自然の豊かな獨協大学のキャンパスには、私たちも知らない生きものや植物が多く生息しています。生きもの調査に参加した体験を通じて、子供たちが成長

していくうえで、「生きものを大切にしよう」「自然が好きだ」という思いを大事にし、多くの人が環境に関心を持っていければと感じました。



## 参加者の声

## 第3回中川・そうか公園

・今回は、広報で紹介された「市内の動植物を調査してみませんか？」の募集に参加してみました。約50人の老若男女の集まりで楽しい調査が出来たと思います。中には、昆虫、植物に関して生辞引の如く、1つ1つを明確に解説してくれる方がいて驚いた。（芝さん）

・カブトムシやバッタなどの生き物が見られてチュウサギも見られて楽しかったです。

（岡本さん）

・今日は朝から霧雨っぽくて、調査会が始まる頃もずっと曇っていましたが、「晴れの日には晴れなりに、曇りや雨なら曇りや雨なりの自然観察をして楽しみましょう」という言葉があり、（なるほどそうだな）と思いました。実際、中川の辺りは、植物も昆虫も沢山観察でき、子供たちが生き生きと虫を追いかける姿にこの自然をずっと残していきたいと思いました。久しぶりにキタテハを見られて嬉しかったです。（K・Y）

・カブトムシがいっぱい見つけられてよかった。

（しん山さん）

・集合時間が早かったですが、子ども達の参加も沢山あり、中川土手でバッタ類を数多く見つけたり捕まえたりできて、自分も含めて子ども達も十分楽しめる時間を過ごすことができました。体験

あつての楽しさなので市内にあるこのすばらしい環境に多くの子どもが触れる機会が作れないものか…と思いました。(白鳥さん)

・雨もあがり湿気の高い中での生きもの調査。今回はルートが2つに分かれましたが、そうか公園ルートに参加しました。池では、チョウトンボやハグロトンボ、ショウジョウトンボなどが見られ、樹液の出る木には、アカボシゴマダラ、コムラサキなどが見られました。講師の方がいろいろと説明して下さるので分かりやすいです。ハス田では、希少な植物も観察できました。柿木の自然もだいぶ変わってしまっていますが、今残っている動植物を大切にしたいと思います。(増根さん)

・本日も楽しい調査になりました。ありがとうございました。(緑川さん母)

・こんかいは、水の中のいき物がいっぱいいた。(緑川さん子)

・今回の集合調査でツミを見ることができました。草加市内でツミを見るのは初めてだったので、とても驚きました。他にもそうか公園内にはたくさんの生き物がいて面白かったです。(仁平さん)

・いろいろな生き物がいておもしろかった。(ふじ石さん)

・ダンゴムシやショウリョウバッタやカエルをつかまえてうれしかった。(カホさん)

## こんな生きもの発見 柿木田んぼで「タタラカンガレイ」 菅 藤男さん

7月下旬、全国的にも珍しい希少植物が産業団地造成のために、水田耕作を止めた柿木田んぼ跡地で生育しているのが環境アセスメント調査で見つかりました。タタラカンガレイ(多々良寒枯藋・・・県絶滅危惧1A種)という県内でも久しぶりに見つかった植物です。

昭和6年に関本 平八氏(栃木県在住・植物研究家)によって、群馬県多々良沼で発見採集されたカヤツリグサ科ホタルイ属の多年草で、根元が水

に浸ったような水辺や湿地が生育環境です。特徴は茎の断面形状で、同属のカンガレイやサンカイと同様の三角柱状の断面に、三角形の頂点に逆向きに小さな三角形が3つ付いていること。攪乱依存種(草刈りや踏みつけなど、主に人為的要因による植生の破壊や生態系の攪乱により、競合する他の種の生育が抑制されるような環境に依存して生育する種。)で工事跡地でしか見られないといわれる短命な多年草で「消え去るクセ」があるというヒトもいます。

調査担当者から連絡を受けてバケツ4個を持参して駆けつけて掘り起こし、すぐにあやせ新栄ビオトープの希少植物自生地内と第二清掃工場ビオトープ池際に移植しました。残念ながら第二工場では誤って刈られてしまいましたが、あやせ新栄ビオトープで観察することができます。「消えないうち」にぜひ見てください。



## 身近な生きもの見分け方 メダカとカダヤシ

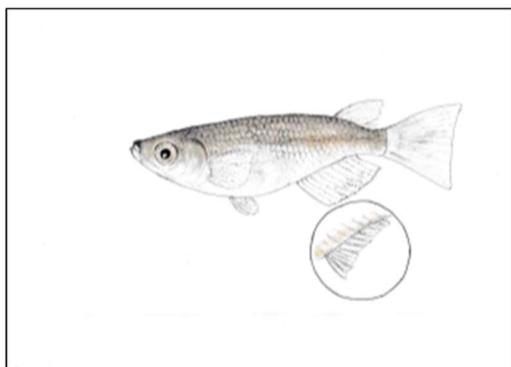
石井 実さん

小さな波紋を作り、水面近くを泳いでいる小さな魚を見て多くの方は、「あ!メダカ」と思われるのでは。非常に残念なことですが、恐らく北米原産の外来種カダヤシ(タップミノ)と思われま。両種は一見すると非常によく似ていますが、ポイントさえ押さえれば簡単に見分ける事ができます。草加のメダカは、絶滅したなどの声も耳にします。メダカを見つけたら是非ご一報ください。

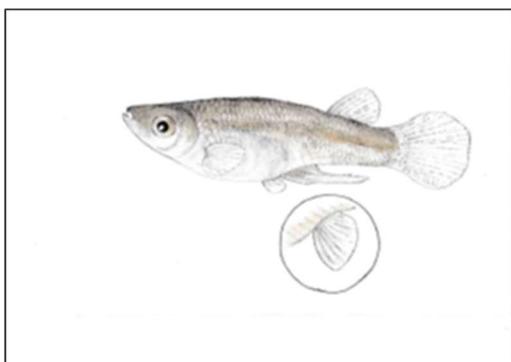
以下、見分け方のポイントとして、メダカとカ

ダヤシの尾ビレや尻ビレの違いを絵や表にまとめてみました。

**メダカ オス (円内はメスの尻ビレ)**



**カダヤシ オス (円内はメスの尻ビレ)**



メダカとカダヤシの違い

項目	メダカ	カダヤシ(蚊絶やし)
名前		
分類	ダツ目メダカ科	カダヤシ目カダヤシ科
全長	3.5cm前後	オス3cm前後、メス5cm前後
繁殖	卵生(卵を産む)	卵胎生(体内で卵を孵化させ子供を産む)
尾ビレ	オス・メスとも直線的な三角形	オス・メスとも丸い
尻ビレ	オス:平行四辺形に近い長方形 メス:オスより幅が狭く尾ビレに近づくほど狭い	オス:細長い棒状 メス:縦長の丸型
在来・外来種	在来種(絶滅危惧Ⅱ類)	特定外来生物(北米原産)

田んぼも多かったのでカヤツリグサ類も10種以上見られ、ミズワラビ、タウコギも見られました。

このフィールドが愛おしく、よく観察して歩き、いつも大小の驚きをもらいます。まず、4月の今でもみられる風景ですが、河川敷全体がカラフルなじゅうたんを敷きつめたようになります。オヘビイチゴの鮮黄色、ムラサキゴケの紫色、ツボスミレの白色、カキドオシの淡紅紫色と一斉に咲き誇ります。

15年前、梅雨の晴れ間に土手に出たところ、突然目の前に美しい花園が見えてきました。河川敷でも水気の多い所、幅2m長さ6m位の広い場所がカラヂシャの花で覆われていたのです。花は、3mm程で白色に淡青色のすじが入っています。地味な花ですが、ユウゲショウなどが混じって群がり咲いている様は、驚きの眺めでした。

8年前の8月末、橋梁近くの河川敷を上からのぞくと黄金色の花群が目に入ってきました。今まで見たことのない花です。図鑑で調べるとミズキンバイと分かりました。水際に直径1m位の群落を作っていました。花の直径が3cmもあるのでキラキラ輝いてそれは見事でした。

私の観察路はなかなか素敵です。昨秋に腰を痛めて、6ヶ月ほど家の中にこもっていました。3月になって少し良くなったので、杖をついてフィールドに出てみました。まぶしい光を浴びた春の花たちがほほ笑みかけてきます。感動で震えてしまいました。

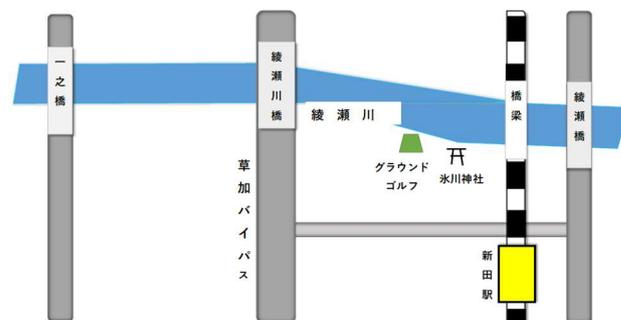
**私の生きもの観察路**

**綾瀬川周辺(綾瀬橋～一之橋)**

島田 寿々子さん

植物の観察を始めて20余年になります。このフィールドは比較的生態系の豊かな所ですが、この20年の間に大変変わりました。外来種が増えて在来種が減りました。

20年前頃は、イヌノフグリ、コイヌガラシ、キツネノマゴ、ゲンノショウコ、イヌナズナ、ノコンギク、マツカサススキなどが結構見られました。



## トピックス

## ◆コアジサシ子育て観察記

増根 雅美さん

この夏、コアジサシを観察する機会に恵まれました。松江の工場跡地で集団繁殖していたのです。

7月19日、古綾瀬川上空を飛ぶ白い鳥に気づきました。細長い翼とツバメのような尾羽。工場跡地にも舞い降りています。キリッキリッという鳴き声にコアジサシだと確信しました。ここは周りを柵に囲まれ天敵のカラスもほとんどいません。隣の川で魚を取りヒナに与える姿を見て、旅立つまで観察することにしました。

7月下旬、親鳥38羽、幼鳥18羽、ヒナも5羽ほど確認しました。草むらにも隠れているのでもう少しいるでしょう。ヒナも幼鳥も茶色っぽい保護色で地面や石ころとそっくりです。探すのに苦労します。しかし親鳥が魚をくわえて上空を飛ぶと、長い翼をばたつかせピィピィと鳴いてアピールします。エサのモツゴを落としたり横取りされたりと大騒ぎです。

8月、成長した幼鳥は飛ぶ練習をしていました。川面を十数羽で低空飛行する姿も見られました。集団で一気に飛び立ち何度か旋回すると、あっという間に空高く舞い上がります。飛ぶ姿が美しいと思ったのはコアジサシが初めてです。青い空がよく似合います。8月5日、幼鳥がいた草むらに資材が置かれていました。着工前の水質調査だといいます。前日には大多数が旅立ち、残っているのは親子で15~20羽ほどでしょうか。市から県へ連絡を取り、鳥獣保護法にのっとり繁殖地の保全と配慮を事業者に指導するという話に、ほっと胸をなでおろしました。

一週間後、今度は地質調査が入りました。一緒に観察していたKさんによると幼鳥がいる場所を車で通ったといいます。飛んで逃げることができましたが、卵やヒナだったらと思うとゾッとします。指導の話は下請けまで伝わっていないのでし

よう。絶滅危惧種といえどもこの程度の扱いなのでしょうか、それとも対応が遅いのでしょうか。作業員たちは気をつけるよと快諾してくれましたが、もう一步踏み込んだ対策をと願います。

8月16日、親鳥3羽と幼鳥6羽を確認。台風後の強い風に乗って滑空しています。そのスピードは素晴らしく速い。海を渡る姿を垣間見たようで嬉しく思います。

8月18日朝、親子は最後の一組になっていました。親鳥は30分ほどかけて2羽の幼鳥に魚を運んでいます。もう隣の川では取れないのです。

昨日はチョウゲンボウ、その前はカラスがやって来ました。コアジサシは必ず親が数羽残って外敵に対処してきたのです。親の帰りを寄り添って待つ幼鳥を見て、今日で見納めだと思いました。夕方、親子の姿はありませんでした。

翌19日、念のためKさんが早朝に出向くと1羽のコアジサシが現れ、二回旋回して飛び去ったといいます。きっと残っている仲間がいないか見に来たのでしょうか。コアジサシは南に渡る前に海辺で大集合するといいます。彼らの愛らしい姿を思い出しながら、旅の無事を祈りました。



幼鳥

餌を運ぶ  
親鳥

## ◆それは害虫だった

草野 美津枝さん

獨協大学の生きもの集合調査の観察スケジュールが済んでのことでした。

校内に戻るとすぐ近くの桜の木を数人の人達が見ています。下には虫の糞が落ちていて、見上げると枝先の葉に沢山のケムシがいました。どう見ても好ましくはないが、怖いものには少しの興味があります。写真を撮り調べてみました。頭は黒、胴体は赤色、白っぽい毛がうすく生えていて何だろう……。

名前は「モンクロシャチホコ」(シャチホコガ科)の若齢幼虫でした。夏以降に、サクラ、ウメなどのバラ科植物に集団発生する害虫で都市部でもよく見られる、とありました。

成虫は、開張45~60mm、特徴的な模様で識別は容易との事。図鑑の写真は美しく撮れているものもある。今後、この成虫に会う事があるのでしょうか……。

写真円内は成虫



## ◆ウマノスズクサ観察記

清水 ヨシ子さん

7月、8月と毎日、ウマノスズクサの観察をしています。

今まで、草加西高校側だけ調査していましたが、安行街道交差点の安行側に一面に繁茂するウマノスズクサを見つけました。

7月13日、あのかわいいお花を見ることが出来ました。7月20日、亜麻色の卵が葉裏に見えます。

数日後、ウマノスズクサを食草とするジャコウアゲハの幼虫がウジャウジャとうごめいているのを見つけました。目が離せません。

ある日、幼虫をのぞき込んでいる方がいるのでお声掛けすると、幼虫は、その方が放したとのことでした。12年前草加に引っ越してき、蝶の標本作りが趣味で飼育も楽しんでおられるそうでミドリ談義が出来ました。

今までナゾだったウマノスズクサの株が消えるのは、幼虫が蛹となる時、他の幼虫に縄張りを荒らされないよう枝先を折って守るのだそうです。しかし、何度も芽が出て復活するそうです。そうか生きものだより6号に人為的なのかと書きましたが、訂正できればと思います。幼虫は、始め黒白で暑くなるにつれて赤色が入り込んでくるともわかりました。

8月18日、いつもの草加西高校の場所に行くと「オイ！遅いぞ！！」と垣根の下からヒラリヒラリとジャコウアゲハが舞い、しばし自然共生を楽しみました。やっぱりフィールドは私の癒しです。



個別調査結果 (令和元年7月~9月)

7月 区域別一覧

区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンポポ											0
	2	セイヨウタンポポ	○					○		○	○	○	5
	3	セイタカアワダチソウ								○			0
	4	カントウヨメナ	○					○		○	○		4
	5	キタミソウ											0
	6	スミレ類											0
	7	ミゾソバ				○	○						2
	8	イヌタデ				○		○		○	○	○	5
	9	ツユクサ	○			○		○		○	○	○	5
	10	ヨシ(アシ)						○		○			2
	11	ハンノキ											0
	12	エノキ											0
	13	クヌギ											0
	14	幹周り2m以上の樹木				○							1
鳥	15	メジロ											0
	16	キジバト	○			○	○	○	○	○	○	○	8
	17	コサギ				○			○		○		3
	18	カルガモ			○		○		○	○	○		5
	19	カワセミ								○	○		2
	20	コガラ									○		1
	21	ツバメ	○		○	○	○		○	○	○	○	7
	22	ツバメの巣	○			○			○			○	5
	23	ハクセキレイ	○			○		○			○	○	5
	24	モズ											0
	25	ツグミ											0
	26	オオヨシキリ								○			1
	27	シジュウカラ	○		○	○	○		○	○	○	○	7
	28	オナガ	○		○	○	○		○	○	○	○	7
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ	○		○	○	○		○	○	○	○	7
	30	アゲハチョウ	○			○	○		○	○	○	○	7
	31	アオスジアゲハ	○			○	○		○	○	○	○	6
	32	ナガサキアゲハ											0
	33	ツマグロヒョウモン	○			○		○		○		○	5
	34	アカボシゴマダラ								○	○		2
	35	カブトムシ							○		○		2
	36	ニイニイゼミ	○			○	○		○	○	○	○	7
	37	クマゼミ											1
	38	ツクツクボウシ											1
	39	オオカマキリ								○			1
	40	シオカラトンボ	○			○		○		○	○	○	6
	41	トノサマバッタ									○	○	1
	42	アマガエル							○		○		2
区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	15	0	5	17	4	17	6	21	21	17	

8月 区域別一覧

区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンポポ											0
	2	セイヨウタンポポ	○			○		○		○		○	5
	3	セイタカアワダチソウ								○			1
	4	カントウヨメナ						○		○			2
	5	キタミソウ											0
	6	スミレ類											0
	7	ミゾソバ				○	○						2
	8	イヌタデ				○	○		○		○	○	6
	9	ツユクサ	○			○		○		○	○	○	6
	10	ヨシ(アシ)						○		○		○	3
	11	ハンノキ											0
	12	エノキ											0
	13	クヌギ											1
	14	幹周り2m以上の樹木											0
鳥	15	メジロ								○			1
	16	キジバト	○			○	○	○	○	○	○	○	8
	17	コサギ				○				○	○		3
	18	カルガモ	○			○			○	○	○	○	6
	19	カワセミ									○	○	2
	20	コガラ								○	○		2
	21	ツバメ	○			○	○		○	○	○	○	6
	22	ツバメの巣	○			○							2
	23	ハクセキレイ	○						○	○	○	○	6
	24	モズ											0
	25	ツグミ											0
	26	オオヨシキリ								○	○		2
	27	シジュウカラ							○	○	○	○	5
	28	オナガ	○			○		○		○	○	○	5
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ	○			○	○		○	○	○	○	5
	30	アゲハチョウ	○			○	○		○	○	○	○	8
	31	アオスジアゲハ	○			○	○		○	○	○	○	5
	32	ナガサキアゲハ											0
	33	ツマグロヒョウモン	○			○		○		○		○	5
	34	アカボシゴマダラ								○	○		3
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ	○			○	○		○	○	○	○	7
	37	クマゼミ											5
	38	ツクツクボウシ	○			○				○	○	○	6
	39	オオカマキリ								○	○	○	2
	40	シオカラトンボ	○			○			○	○	○	○	6
	41	トノサマバッタ									○	○	2
	42	アマガエル							○		○		2
区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	15	0	0	18	4	17	9	28	22	17	

### 9月 区域別一覧

区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンポポ								○			1
	2	セイヨウタンポポ	○			○	○	○				○	6
	3	セイタカアワダチソウ								○		○	2
	4	カントウヨメナ				○		○		○			3
	5	キタミソウ											0
	6	スマレ類								○			1
	7	ミゾソバ				○				○			2
	8	イヌタデ	○			○		○	○	○	○	○	7
	9	ツユクサ	○			○		○	○	○	○	○	7
	10	ヨシ(アシ)				○	○	○		○		○	5
	11	ハンノキ											0
	12	エノキ											0
	13	クスギ											0
	14	幹周り2m以上の樹木											0
鳥	15	メジロ									○		1
	16	キジバト	○			○		○	○	○	○	○	7
	17	コサギ								○	○	○	2
	18	カルガモ	○			○		○		○	○	○	6
	19	カワセミ								○	○		2
	20	コガラ									○		1
	21	ツバメ									○		1
	22	ツバメの巣											0
	23	ハクセキレイ	○						○		○	○	5
	24	モズ								○	○		2
	25	ツグミ											0
	26	オオヨシキリ				○					○		2
	27	シジュウカラ							○		○	○	4
	28	オナガ	○			○		○	○	○	○	○	7
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ	○			○		○	○	○	○	○	7
	30	アゲハチョウ	○			○		○	○	○	○	○	7
	31	アオスジアゲハ				○			○	○	○	○	5
	32	ナガサキアゲハ				○				○	○	○	2
	33	ツマグロヒョウモン			○	○	○	○	○	○	○	○	8
	34	アカボシゴマダラ							○	○	○	○	4
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ										○	1
	37	クマゼミ									○		1
	38	ツクツクボウシ	○			○			○		○	○	6
	39	オオカマキリ	○			○				○	○	○	4
	40	シオカラトンボ	○			○	○	○	○	○	○	○	8
	41	トノサマバッタ								○	○		2
	42	アマガエル							○		○		3
区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	12	0	1	18	4	16	10	29	24	18	

注) 報告のとおり記載しています。

### ○調査区域

区域	町名
1	瀬崎
2	谷塚、谷塚町
3	谷塚上町、谷塚仲町、両新田東町、両新田西町、新里町、遊馬町、柳島町
4	吉町、手代、中央、高砂、住吉、神明
5	草加、西町、氷川町
6	稻荷、青柳1丁目
7	松江、弁天、栄町、中根、八幡町
8	旭町、新善町、金明町、清門、長栄、新栄
9	青柳(1丁目を除く)、青柳町、柿木町
10	松原、花栗、苗塚町、小山、北谷、北谷町、原町、学園町

○42種以外の生きもの(令和元年7月~9月)

区分	7月	8月	9月
植物	216 (内、外来85種)	206 (内、外来83種)	224 (内、外来84種)
鳥	17	23	18
昆虫等	132	77	132
計	365	306	374

注) 詳細は市ホームページに掲載

第3・4回そうか生きもの集合調査 観察リスト

第3回

- ・開催日 令和元年7月23日(火)
- ・場所 中川河川敷、そうか公園
- ・参加者 39人(うち子供11人)
- ・確認数 中川河川敷 植物37種、鳥12種、昆虫その他39種  
 そうか公園 植物43種、鳥12種、昆虫その他27種

第4回

- ・開催日 令和元年8月20日(火)
- ・場所 獨協大学・松原団地記念公園
- ・参加者 52人(うち子供11人)
- ・確認数 獨協大学芝生広場 植物14種、昆虫その他23種  
 松原団地記念公園 植物11種、昆虫その他2種  
 ・魚類調査確認数 松原団地記念公園 6種  
 伝右川 3種

○第3回  個別調査42種  中川河川敷  そうか公園

【観察された生きもの】			中川河川敷			
区分	No.	生きもの名	No.	生きもの名	No.	生きもの名
植物37種	1	アキノエノコログサ	14	コマツヨイグサ	27	ハナイバナ
	2	アメリカオニアザミ	15	シマスズメノヒエ	28	ヒメガマ
	3	アメリカカタカサブドウ	16	シロツメグサ	29	ヒメジョオン
	4	イヌビエ	17	セイバンモロコシ	30	ヘクソカズラ
	5	イヌムギ	18	セイヨウタンポポ	31	ムラサキツメクサ
	6	ウラジロチチゴグサ	19	ツユクサ	32	メヒシバ
	7	エノコログサ	20	トキワハゼ	33	メマツヨイグサ
	8	オオイヌホオズキ	21	ナガバギシギシ	34	メリケンガヤツリ
	9	オッタチカタバミ	22	ネズミムギ	35	ヤブガラシ
	10	オヒシバ	23	ノグシ	36	ヤブヘビイチゴ
	11	カヤツリグサ	24	ノボロギク	37	ユウゲシヨウ
	12	カントウヨメナ	25	ノミノツヅリ		
	13	コゴメガヤツリ	26	ハキダメギク		
鳥12種	1	アオサギ	5	スズメ	9	ハシボソガラス
	2	カワラヒワ	6	チュウサギ	10	ヒヨドリ
	3	キジバト	7	ツバメ	11	ホオジロ
	4	コチドリ	8	ハクセキレイ	12	ムクドリ
昆虫・その他39種	1	アオスジアゲハ	14	キタテハ	27	ナナホシテントウ
	2	アカボシゴマダラ	15	グンバイムシ	28	ニイニイゼミ
	3	アゲハチョウ	16	ゲジ	29	ハグロハバチ
	4	ウスイロササキリ	17	コオロギ	30	ハネナガイナゴ
	5	ウリハムシ	18	コカマキリ	31	ヒシバツタ
	6	オオカマキリ	19	コスズメバチ	32	ヒメジャノメ
	7	オオスズメバチ	20	コムラサキ	33	ベニシジミ
	8	オオモンクロベッコウ	21	ショウジョウトンボ	34	ホシホウジャク
	9	カナブン	22	ショウリョウバッタ	35	マイマイ
	10	カナヘビ	23	シロテンハナムグリ	36	マメコガネ
	11	カブトムシ(オス・メス)	24	ツバメシジミ	37	ミミズ
	12	カマドウマ	25	ナガコガネグモ	38	ミンミンゼミ
	13	キアゲハ	26	ナガメ(幼虫)	39	ヤマトシジミ

【観察された生きもの】				そうか公園			
区分	No.	生きもの名	No.	生きもの名	No.	生きもの名	
植物43種	1	イヌビユ	16	コセンダングサ	31	ハキダメギク	
	2	イヌムギ	17	コニシキソウ	32	ハナイバナ	
	3	エノキグサ	18	コマツヨイグサ	33	ヒガンバナ	
	4	エノコログサ	19	ザクロソウ	34	ヒメガマ	
	5	オオイヌタデ	20	シマスズメノヒエ	35	ヒメジョオン	
	6	オオイヌノフグリ	21	シロツメグサ	36	ヒルガオ	
	7	オシロイバナ	22	スカシタゴボウ	37	ヘクソカズラ	
	8	オッタチカタバミ	23	セイバンモロコシ	38	ヘラオオバコ	
	9	オニタビラコ	24	セイヨウタンポポ	39	ホトケノザ	
	10	オヒシバ	25	ツユクサ	40	ミズオオバコ	
	11	カヤツグリグサ	26	トキワハゼ	41	メヒシバ	
	12	ギョウギシバ	27	ナガバギシギシ	42	メマツヨイグサ	
	13	コウホネ	28	ノゲシ	43	ユウゲシヨウ	
	14	コゴメガヤツリ	29	ノブドウ			
	15	コスズメガヤ	30	ノボロギク			
鳥12種	1	アオサギ	5	ダイサギ	9	ハシブトガラス	
	2	オナガ	6	チュウサギ	10	バン(幼鳥)	
	3	キジバト	7	ツバメ	11	ヒヨドリ	
	4	セッカ	8	ツミ	12	ムクドリ	
昆虫・蝶・その他27種	1	アオスジアゲハ	10	コオロギ	19	ドジョウ	
	2	アオドウガネ	11	コシアキトンボ	20	ニイニイゼミ	
	3	アカボシゴマダラ	12	コフキトンボ	21	ハグロトンボ	
	4	アブラゼミ	13	コムラサキ	22	ミンミンゼミ	
	5	アマガエル	14	ショウジョウトンボ	23	モツゴ	
	6	アメリカザリガニ	15	ショウリョウバッタ	24	モンシロチョウ	
	7	イラガ(幼虫)	16	タニシ	25	ヤマトコマチグモ	
	8	ウシガエル	17	ダンゴムシ	26	ヤマトシジミ	
	9	ギンブナ	18	チョウトンボ			

○第4回  個別調査42種  獨協大学芝生広場  松原団地記念公園

【観察された生きもの】				獨協大学芝生広場			
区分	No.	生きもの名	No.	生きもの名			
植物14種	1	アゼスゲ	8	セリ			
	2	オオアレチノギク	9	タカサブロウ			
	3	アメリカタカサブロウ	10	チガヤ			
	4	カサスゲ	11	ヒメガマ			
	5	コガマ	12	ヒメジョオン			
	6	コナギ	13	ヒメムカシヨモギ			
	7	シマスズメノヒエ	14	ミソハギ			
昆虫・蝶・その他23種	1	アオドウガネ	13	コシアキトンボ			
	2	アジアイトンボ	14	ショウジョウトンボ			
	3	アシナガバチ	15	ショウリョウバッタ			
	4	アブラゼミ	16	セスジズメ			
	5	アマガエル	17	セセリチョウ			
	6	イナゴ	18	ツユムシ			
	7	オンブバッタ	19	テントウムシ			
	8	キアゲハ	20	ナミアゲハ			
	9	クビキリギス	21	ヒキガエル			
	10	クマゼミ	22	ミンミンゼミ			
	11	クモ	23	ヤマトシジミ			
	12	コオロギ					

【観察された生きもの】				松原団地記念公園			
区分	No.	生きもの名	No.	生きもの名			
植物11種	1	エノコログサ	7	セイバンモロコシ			
	2	カタバミ	8	ハキダメギク			
	3	コガマ	9	ヒメジョオン			
	4	シマスズメノヒエ	10	マルバハッカ			
	5	シロツメクサ	11	ムラサキツメクサ			
	6	ススキ					
昆虫・蝶・その他2種	1	コシアキトンボ					
	2	モンキチョウ					

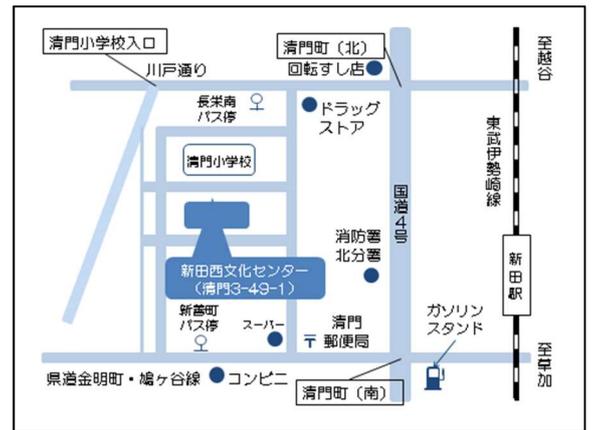
◆魚類調査

区分	No.	松原団地記念公園池	No.	伝右川(獨協大学正門前)
水生生物	1	アメリカザリガニ(3匹)	1	アメリカザリガニ(1匹)
	2	カダヤシ(多数)	2	シモフリシマハゼ(3匹)
	3	ギンブナ(13匹)	3	ベンケイガニ(1匹)
	4	コイ(数匹)		
	5	スジエビ(10匹)		
	6	モツゴ(多数)		
植物			1	イトモ
			2	ハゴロモモ

集合調査のご案内

- ・日 時 令和元年12月7日(土) 9時～正午
- ・集合場所 新田西文化センター  
清門3-49-1 ☎942-0778
- ・集合時間 8時50分
- ・内 容 綾瀬川の野鳥を調べます。
- ・申 込 み 12月5日(木)までに環境課へ
- ・交 通 新田駅東口 朝日バス  
8:17発 新栄団地行き長栄南バス停下車徒歩4分  
8:28発 獨協大学前駅西口行き新善町バス停下車徒歩4分  
※出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

新田西文化センター案内図



読者からの投稿写真

■鈴木 功さん (撮影場所：柿木田んぼ)



ケリ

(撮影場所：そうか公園)



キクイタダキ

■小野 辰則さん (撮影場所：そうか公園)



ツツドリ



ツミ (カラスに襲われ池に落ちた)

■増根 雅美さん（撮影場所：そうか公園）



チョウトンボ



ハグロトンボ

これからよく見られる生きものたち

○植物



センダン



ノイバラ

○鳥



ヤマガラ



アトリ

○昆虫



ウラギンシジミ



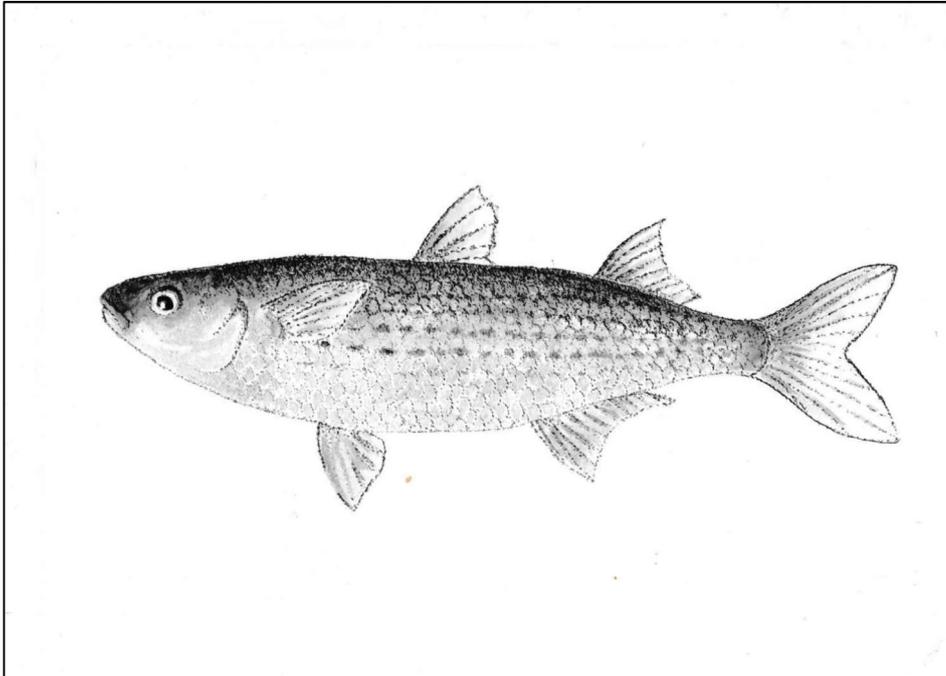
ルリタテハ

そうか生きものだより編集委員会委員  
菅 藤男 近岡 勝夫  
村木 浩一 草野 美津枝

※より充実した生きものだよりをお届けするため、編集委員を募集しています。お気軽に環境課まで連絡してください。

【編集後記】

11月1日、朝日新聞の地方版にアサギマダラの記事が掲載されていました。北海道で放たれたこのチョウが600キロ離れた北本市で確認されました。1999年からマーキング調査を始め、これまでの約2千匹のうち、再捕獲されたのは8例目、埼玉県は初で、今も飛行ルートは不明とのことです。あらためて生きもの不思議さに触れた思いです。 [K]



## 【ボラ】

ボラ目 ボラ科

体長は50cm前後。最大80cmを超える。

世界の熱帯や温帯に広く分布する。日本では出世魚として知られなじみ深い。

食性は雑食性で石の表面の藻類や甲殻類。

水の汚染にも強く都市部の内湾や河口の汽水域にも多く生息するが詳しい生態は不明。

市内の伝右川では、4~5月から12~2月の間、観察でき、その間2~3cmの稚魚は20cm近くまで成長します。大きな群れを作りその後、姿を見せなくなります。

イラスト：石井 実さん